

令和4年8月 定例教育委員会 議事録

- 日 時 令和4年8月22日(月) 開会17時30分
閉会19時32分
- 場 所 5階大会議室
- 出席者 教育長 寺岡 悌二
教育委員 福島 知克(教育長職務代理者)
教育委員 山本 隆正(議事録署名委員)
教育委員 川崎 栄一
教育委員 新谷 なをみ
- 事務局職員 教育部長 柏木 正義
教育部次長 稲尾 隆
教育政策課長 奥 茂夫
学校教育課長 松丸 真治
社会教育課長 古本 昭彦
教育政策課参事 浅井 建二
教育政策課参事 森本 悦子
教育政策課参事 西澤 和江
教育政策課参事 時松 哲也
学校教育課参事 利光 聡典
学校教育課参事兼教育相談センター所長
太田 悟
共生社会実現・部落差別解消推進課参事兼学校教育課参事
縄田 早苗
教育政策課長補佐兼教育政策係長
釘宮 誠治
教育政策課指導主事 重岡 秀徳
- 傍聴人 0名
- 議事日程 第1 議事録署名委員の指名について
第2 令和4年度一般会計補正予算案(第4号)について【議第43号】
※非公開
第3 工事請負契約の締結について【議第44号】 ※非公開
第4 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に
関する結果報告書について【議第45号】
- 報告事項 (1) 寄附受納について【報告第9号】
(2) 令和4年度別府市功勞表彰・特別功勞表彰候補者について
【報告第10号】 ※非公開
- その他 (1) 令和4年度別府市外国語指導助手(ALT)について
(2) 9月定例教育委員会の開催日程について

議 事 録

◎ 開 会

寺岡教育長 ただいまより令和4年8月の定例教育委員会を開会いたします。

◎ 議事録署名委員の指名について

寺岡教育長 議事日程第1、議事録署名委員の指名につきましては、本日は山本委員にお願いいたします。
本日の議事のうち、議第43号 令和4年度一般会計補正予算案(第4号)について、議第44号 工事請負契約の締結について、及び報告第10号 令和4年度別府市功労表彰・特別功労表彰候補者については、別府市教育委員会会議規則第6条第1項の規定により非公開とすることを提案いたします。
お諮りいたします。この案件を非公開とすることに賛成の委員の挙手をお願いいたします。出席者の3分の2以上でありますので、これを非公開とします。また、これにより審査順序を入れ替えたいと思います。議第43号、議第44号、及び報告第10号についての審議を最後に行います。

◎ 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する結果報告書について

寺岡教育長 それでは議事に入ります。議事日程第4、議第45号 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する結果報告書についての説明をお願いいたします。

教育政策課参事 それでは8ページをご覧ください。議第45号につきましては、規定により議決を求めるものです。
お手元に配布しております「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する結果報告書」をご覧ください。本報告書は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に基づき、令和3年度に別府市教育委員会が実施した事務事業について教育委員会事務局が点検及び自己評価を行った上で、教育行政の造詣の深い3名の学識経験者からなる知見活用委員会においてご意見、ご評価等をいただき、まとめたものとなっております。
今申し上げた趣旨等につきましては1ページに、自己評価と今後の展開や方向性等につきましては事業ごと2ページ以降に掲載しております。また、3名の知見委員のご意見につきましては27ページから、自己評価と各知見委員のご意見を踏まえた教育委員会としてのまとめは31ページに記載しております。報告書についての説明は以上でございます。

寺岡教育長 ただいま教育政策課参事より説明がございました。これより質疑を行います。教育委員の皆様、何かございますでしょうか。

山本委員 以前は大分大学の山崎先生から多面的な指摘をいただいたことを記憶しておりますけども、今回このお三方の先生方は、最後に多少なりの意見を書かれているようでありまして、教育委員会としては、この先生方のご評価というのはどのように捉えられているのでしょうか。

教育政策課参事 全体としての評価は、概ね良いというご評価をいただいていると認識しております。その理由といたしましては、令和3年度に第2期教育大綱が出来上がりましたので、今回の令和3年度事務事業評価につきましては、この教育大綱の3つの柱の実現のために施策という形で位置づけをしております。そのため、この2年3つの柱の枠組みで事務事業評価をしておりますので、そのための施策の実現というのが大変明確となって分かりやすくなったというようなご評価をいただいているところでございます。そのような形で、3つの柱という枠組みで評価を行う関係で、シートについても若干の変更を加えているところです。私どもの課題といたしましては、そうやって大綱からの流れを大事にしたような形で評価をしたところではあるのですが、まだ若干、実際の事務事業のところとのずれがあるということは、知見活用委員さんからもご指摘をいただいておりますので、これにつきましては早急に見直しをかけていかないといけないと思っております。また、課題等をしっかり整理して、それをまた来年、次年度以降につなげていくというようなシートにも十分成り得ないところもございまして、これにつきましても令和4年度の方からそのような形で事務事業評価ができるようにシートに見直しをかけていこうと思っております。以上が事務局としての捉えでございます。

山本委員 なかなか評価も分かりづらいところもあるんですけど、コロナ禍でいろんなことができなくて評価が下がった分とかいうのもあるでしょうし、実際対策が十分ではなくて過小評価された部分もあると思います。ABCで評価されていますが、実際この課題が大きいというようなところがあれば指し示していただきたいのですが。

教育政策課参事 31ページのまとめのところをご覧になっていただきたいのですが、こちらで実際の事務事業評価で「拡充」「継続」「見直し」「終了」ということを載せております。次年度の取組に繋がるような形で、継続するのか終了していくのか判断をしているところでございます。

山本委員 「見直し」の部分に不登校児童生徒支援連絡協議会の設置、ICT教育の推進などがありますが、この不登校やICTというのは、別府市に限らず非常に大きな問題だと思います。やはりその辺が大きな課題ということでしょうか。それとこの辺に対して今後どのように取り組んでいこうというようなことが何かあれば。

教育政策課参事 実は今日、大分県教育委員会の事務事業評価の会議に参加してまいりまし

た。やはり委員ご指摘のとおり、今は ICT と不登校については、本市に限らず県も同じような結果が出ているところでございます。本市につきましては、不登校については教育長から常に重要課題として取り組むようにと指示もいただいております。まずは本市の取組について、これが独りよがりになっていけませんので、外部の評価を入れていこうということで、本年度新たに大分大学の教職大学院の准教授の先生に、本市の不登校対策の取組について、一度取組の可否と言いますか、本市の強み、または課題として挙げられるところを客観的に評価いただこうということで、ひとつ取組を新たに行っているところでございます。ICT につきましては、ハード、ソフトの面で様々な課題がありますので、これは着実に進めていっております。インターネットの速度の部分がずっと懸案で挙がっていましたので、回線を変えるなどしてきているのですが、それでもまだ不具合が生じるという状況もございます。それにつきましては、市長部局とも相談をしながら、20 項目ほど障害と考えられる箇所をあぶり出して、一つひとつ確認をしながら今精査しているところでございます。そのような形で2つの重点項目につきましても一つひとつ進めているような段階でございます。

寺岡教育長 不登校については、今までの取組を再度分析評価するために外部講師を入れてそういう協議を行います。ICT についてはある程度ハード面も同時進行で着実に進めたいということで、委員さんがおっしゃるとおり、いずれにしても重要な課題でございます。

山本委員 特に ICT などは、慣れない先生方が非常に負担になっているということで、何か楽に使えるとかそういう対策は必要でしょうね。

川崎委員 今山本委員からご質問があった「見直し」の部分の ICT 教育の推進と不登校の問題ということで、それも大事だなと思って聞いていたのですが、それ以外でちょっと分からないところがあって、細かいかもしれませんが、3 ページの「全国学力・学習状況調査において全教科全国平均正答率以上」という指標の実績数値が 25% というのがどういう意味か分からなかったもので、教えていただきたいというのが一つ。もう一つは、14 ページの「別府に対してほこりや愛着を持っている児童生徒を育成する」という中で、別府学の取組が載っているんですが、それが目標値に対して実績の数値が上がってないということに対して「継続」となっていますが、別府学そのものが子どもにとって興味のあるものなのかどうかというか、そういうことが感じられるんですが、その辺はいかがでしょうか。

学校教育課長 まず3 ページの全国学力・学習状況調査の 25% につきましては、一番下の「今後の方向性と改善策」の欄に学力の向上に向けた取組の実績数値は 25% とあって、括弧書きで、小学校 6 年生の国語+0.3、算数-1.2、中学校 3 年生の国語-0.6 と数学-3.2 となりました、とあります。この4つのうち小学校国語のみが平均正答率以上となっているので、4分の1ということで 25% ということになっております。もう1点の別府学につきましては、今のところこの指標が、全国学力・学習状況調査の質問紙から取っている部分になります。この数値はやはり例年高くなっていない部分になり

ますので、一つ目の「地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがある」と回答した児童生徒をまずは 50%以上とさせていただきます。実績数値は 45%ということですので、これでいきますと 50 分の 45 ということで、90%は達成できているということになります。ただもう一つの「郷土別府に対してほこりや愛着を持っている児童生徒の割合が 70%」としているのですが、やはり依然としてこの点につきましてはアンケート調査によっても高い数値を得られておりませんので、今後ちょっと内容を変えていきなり、年間 5 時間とお願いしているのですが、その内容等をもう少し各学校に周知していかないといけないかなと考えております。以上でございます。

川崎委員 地元愛を醸成するという中で一つの取組として、大分市では経済界の経営の方などが中学校に行って出前講座をやっているというような話を、多分聞かれていると思うんですけど、その中で、業種の中身の説明だったり大分市への愛着を持たせるような話というのをやっていたりするのを、経済同友会の中で 2 年くらいやっています。そういう意味では地元愛を醸成させるための講座という形でやっているのですが、それは一つの例として、別府学だけにとらわれず別のやり方とかですね、例えば、経済同友会でなくても別府商工会議所の別府の企業の方が、別府市にはどういう企業があってもみんながどういう仕事をしていて、それが地元愛に関係があるとかですね、そういう企業経営者の思いとか、まあ小学生には難しいかもしれませんが、中学生向けであればそういったことも一つの手法としてあり得るのかなと思って、例を挙げさせてもらいました。そう言ったことも踏まえて、また検討してもらえればいいかなと思っております。

学校教育課長 ありがとうございます。

寺岡教育長 参考意見として、ということでよろしいでしょうか。ではぜひ学校教育課はそれも含めてまた検討していただければと思います。その他はよろしいですか。

新谷委員 特にこれというものは無いのですが、私はこの知見活用委員を 3 年間務めまして、正直言うと分かりにくかったというか、やりにくかったというのがあるんですね。そもそもここに書かれていることに対して、やった内容のことを書いているんですけども、知見委員としては、この内容が分かりにくいからもっとこういうふうに書いたらいいとか、そういうことは言えるんですけども、正直言ってやり方があまりよくないから違うやり方をしたほうがいいんじゃないかな、ということをお願いんですけども、これはやったことの評価に対する意見であって、これはもうやめたほうがいいのか、こんなやり方はよくないとか、そういう意見の場にならなかったということが一つあります。それからもう一つ、これは、市民に別府市の教育がどんなことをして、どういう評価をもらったかということホームページで知らせる目的もあるんですね。そのホームページに出たときに市民が見て、すごく分かりやすいホームページなのか、ということも課題だと思えます。だからこれも結構委員としては、3 回出席して、すごく中身を読み込んで、当時 3 人ともすごく考えて意見を言うんですけど、ま

た同じことが次の年に出てきたりとかして、あまり改善されていない。だから、考え方としてはスクラップアンドビルド、あまり効果がないものはやり方を変えとか、やめるとか、そういうようなやり方をしていかないと、この知見活用委員会は、しなければいけないからしている、というような、ちょっとそういう印象を私は3年間持っていました。だからするのであれば、この項目についてはぜひ厳しい意見をもらって、来年こんなふうに変えたいとか、そんな意図が見えればいいんですけども、要するに、知見活用委員会のやり方、それから市民に公開して、分かりやすい公開の仕方です市民からの意見を求める、そういう目的であればもっと違う公開の仕方がいいのかと思います。この2つを3年間ずっと感じておりました。

教育政策課参事 ご指摘のとおりと感じております。知見委員さんとも事前に何度もディスカッションしながら、お知恵を借りながら、今回も少しシートの形式等変えてきたところでございます。しかしながら、まだまだ発展途上だなどという事は、私共も強く実感しておりますので、令和3年度実績のものを今年度中に整理しようということで、少し前倒し前倒しで評価をして次年度の予算要求に乗るようにと、知見活用委員会のあり方というものを考えていきたいと思っております。今2点いただきましたご意見をしっかり反映させていきたいと思っております。

新谷委員 なぜそう言ったかという、31ページの真ん中辺りに、『『主な取組』の評価を行う根拠となる『指標の項目』と目標値が達成状況を評価するに適切であること』と書いてありますよね。これは山崎先生のときからずっと言われていたことなんですよね。ずっと言われていたにもかかわらず、やはり毎年同じことが委員会で出てくる。このシートは各課担当の人が作るんですよね。そのときに、こういう書き方をしてほしいというレクチャーがあって書くと思うんですが、それが浸透していないというか。事業をするときにはこういう目標を持ってしますよね。その目標のためにはどんなやり方をすればいいかということを決めてすると思うのですが、このやり方の部分に教育委員会の方々がどう関わっているかということですかね、それもやっぱり重要かなと思うんですよね。だから、一つひとつすごく大変だと思うんですが、最後の目標に達するためのステップみたいなものを、担当者だけがするんじゃなくて、やっぱり皆さんで、去年できなかったことを改善するためにはどんなやり方が必要か、ということをよく話をして取り組まないと、同じことを毎年指摘されているような印象があります。

寺岡教育長 不易流行もありますけど、慣例的なものを少し変えてより質の高いものというご指摘、ということでもよろしいですか。

教育政策課参事 はい。分かりました。

福島委員 過去を評価することを今やっているんですよね。そして未来を決める。そうではなくて、今はコロナの時代で、そうすると教育文化というのが変わろうとしているわけですよね、学級閉鎖などで長い休みもあって。都会の学校をみると、相当宿題を出しているんですよね。ここはどのくらい出しているか分かりませんが、子どもたちが朝から晩まで宿題を解く

らい出ているんですよ。要するに学校でできないから。コロナで教育文化が変わるんだったら、もう少し前のりで、こういうことをしましょう、しませんか、ということを書かないと、この評価というものが間違ってくるんじゃないですかね。それともう一つは、ICT教育です。どんどんICT教育になろうとしているんですよ。英語は全部教科書をなくしてしまうとか言っていましたよね。それを先取りするためには、ICTの中で宿題を出すことによって、分からなくても後で先生が解説すればいいわけで、もう少し前向きにやっていかないと、それは過去の通知表だけで終わるんじゃないですかね。未来の通知表を作っていくことが教育者としての使命ですから、いつ収まるか分からないコロナによって教育文化は絶対変わります。私はずっと変わらない変わらないと思っていたけど、今随分変わっていますよね。だからもっと未来志向がないと文化はどんどん変わっていきますから、少し取り入れたほうがいいと思いますね。それか取り入れる筋道をどなたか中心になって作る。ほんのちょっとしたことですけどそう感じました。

教育部長 今言われたとおり、結果報告書というのが通知表で終わってしまうと何にもならないと言いますか、評価を受けたことによって、次にどう改善されたのか、ということのを常に考えていかないといけませんし、それを次年度の予算、そういったものに反映させていく必要がありますので、ほんとに福島委員が言われたとおり、評価で終わらないように、しっかりと取り組んでいきたいと思えます。ありがとうございました。

寺岡教育長 その他はよろしいでしょうか、では、他に質疑等もないようでございますので、以上で質疑を打ち切り、議第45号は、原案に対し議決することにございませぬか。

※異議なし

寺岡教育長 ご異議もないようでございますので、議第45号は議決することに決定いたしました。

◎ 報告事項(1)

寺岡教育長 次に報告事項に入ります。報告第9号 寄附受納についてでございます。この件につきましての説明をお願いいたします。

教育政策課長 それでは9ページをお開きください。報告第9号 寄附受納についてでございます。

10ページをご覧ください。寄附受納いただいた一覧を記載しております。教育政策課関係部分は番号1と2です。岡部照秋氏より学校備品の充実のため、宮太鼓及びその台をご寄附いただきました。朝日中学校に配置する予定です。運動会での応援や合図、音楽の授業での日本文化や日本独自の音楽に触れてもらうためという寄附目的となっております。教育政策課関

係は以上でございます。

学校教育課長 学校教育課です。番号3、「かしこい小さな生き物たち」、こちらは宮崎恵子様より、小さな生物たちに親しんでいただきたいという思いでご本人が執筆した書籍14冊の寄贈がありました。市内小学校に1冊ずつ送付しております。番号4、紙芝居「笑い地蔵」28冊につきましては、原本がこちらです。これを幼稚園、小学校に1冊ずつ送付しております。NPO法人ラフターヨガジャパンラフターアンバサダー大分笑いヨガクラブ様から、コロナ禍でも笑いでみんなの心をつなげられればという思いから寄贈がありました。学校教育課関係部分については以上でございます。

社会教育課長 それでは社会教育課関係部分についてご報告いたします。10ページの5番から12ページの24番までの20点となります。まず5番から9番までの5点につきましては、別府市の合田習一様より木彫刻を、10番から19番までの10点につきましては、豊後大野市に在住の後藤龍二様より油彩を、20番と21番の2点につきましては、大分市の藤野啓子様より紙本着色を、それぞれご自身の作品ですが美術館に寄贈いただいております。次に22番につきましては、別府市鶴見園町にお住いの右田恒夫様より卓球台一式を西部地区公民館に寄贈いただいております。右田様は南立石エンジョイ倶楽部卓球教室に所属しておりまして、同公民館を利用しております。この度、倶楽部で購入いたしました卓球台一式を、同倶楽部以外の卓球教室でも自由に使ってもらい、クラブ活動の活性化と使用者の健康増進を図ってほしいとお気持ちでご寄附いただきました。最後に23番24番の2点は、別府市の二宮滋夫様より、ご兄弟の二宮孝子様様の絵画を美術館に寄贈いただいております。頂きました絵画等につきましては、お配りしました資料にありますのでご確認いただければと思います。以上でございます。

寺岡教育長 ただいま各課長より報告がございました。これより質疑を行います。教育委員の皆様、何かございますでしょうか。

山本委員 今日新聞に載っていましたが、美術館をしばらく休館ということですが、こういう美術品の倉庫というか、それはまた別の場所にあるのですか。倉庫の容量なども教えてください。

社会教育課長 本日新聞で報道されました。後ほど工事の契約議案のほうでご説明させていただきますが、10月から令和6年の2月まで工事の関係で休館を予定しております。現在美術館に所蔵しております作品につきましては、重要な作品約30点、福田平八郎の資料、絵画等ございます。それにつきましては、現在県立美術館OPAMで受託いただくように学芸員のほうに問い合わせさせていただいております。残りの作品につきましては、工事期間中、旧山の手中学校のコンピューター教室にまだ空調がついたままの状態でございます。それと、野口ふれあい交流センターの2階の本課が管理している部屋があるんですけども、文化財を保管している部屋になります。そちらのほうにも空調がありまして、残りの作品については、この2つの場所で工事期間中は保管させていただきたいと考えております。

山本委員 教育委員会に出席すると結構寄附の報告があるので、だんだん収蔵するところがなくなってくるのではないかと心配になるんですけども。

社会教育課長 今回美術館の空調工事を行います。現在空調を動かす機械室がありまして、今回の改修に伴って機械室の4分の3程度機械を撤去いたしますので、それで空いたスペースを所蔵庫として利活用できないかと考えております。所蔵庫として必要な空調や耐火等の設備に必要な費用がどのくらいかかるのかという積算を建設部をお願いしております。その部分を今後所蔵庫として改修できるのかということ、今後財政とも協議しながら進めていきたいと考えております。

山本委員 今のお話だと、今貯蔵している美術品というのは、旧山の手中学校と野口ふれあい交流センターの教室大体2つ分くらいで収まるくらいの量ということですか。

社会教育課長 現場を確認すると、旧山の手中学校のコンピューター教室がかなり広いです。間口の関係で入らない大きな作品がありますので、その辺を野口のほうを利用するという形で、最終的に2か所に収めます。現在所有している作品的には十分収納可能です。

教育部長 今社会教育課長から説明があったのは、空調の工事をしている間どこに収納するかという説明をさせていただきました。今の美術館は美術館として作った施設ではないので、なかなか思うように収納設備ですとか太陽の光も入ってきたり、設備については美術品にとってはいろいろ良くないという環境がありますので、先程話があったとおり一部機械室が空いたりしますので、そういったところを少しずつでも改修して、今ある美術品を大切に、将来に向かって引き継いでいかなければならないという使命もございますので、施設のあり方については今後考えていきたいと思っております。

寺岡教育長 その他はございませんか。では他に質疑等もないようでございますので、以上で質疑を打ち切りたいと思います。

◎ その他（1）

寺岡教育長 次にその他（1）令和4年度別府市外国語指導助手（ALT）についてでございます。この件につきましての説明をお願いいたします。

学校教育課長 16ページ17ページをご覧ください。令和4年度別府市外国語指導助手（ALT）についてご説明いたします。令和4年度契約を更新された者が5名、そして、令和4年度新規招致ということでサムエル アイザック ベンジャミン スロムスキー プリッツ、令和4年度退職ということでダニエル ウィリアム ジーボル、6年間別府市で勤務していただきました。以上でございます。

寺岡教育長 ただいま学校教育課長より説明がございました。これより質疑を行います。教育委員の皆様、何かございますでしょうか。

山本委員 ALTの契約期限というのは5年ということによろしいですか。

学校教育課長 5年なんですけど、ダニエルの場合につきましては、コロナ禍だった関係で1年間ずれがあります。

山本委員 ALTの2年目の方が4人もいらっしゃるの、どこかでまとめていなくなってしまうことにならないように気を付けないといけないですね。

寺岡教育長 その他はよろしいでしょうか。現在6名のALTを招致しております。では他に質疑等もないようでございますので、以上で質疑を打ち切ります。

◎ その他（2）

【概要】 ※令和4年9月定例教育委員会の開催日程について、令和4年9月30日（金）17：30より開催することが決まった。

◎ 令和4年度一般会計補正予算案（第4号）について ※非公開

寺岡教育長 ここからは非公開となります。関係者以外の方は、申し訳ありませんがご退席をお願いいたします。

※関係者以外退席

寺岡教育長 それでは議事に戻ります。議事日程第2、議第43号 令和4年度一般会計補正予算案（第4号）についての説明をお願いいたします。

以下非公開

◎ 工事請負契約の締結について ※非公開

寺岡教育長 次に議事日程第3、議第 44 号 工事請負契約の締結についての説明をお願いいたします。

以下非公開

◎ 報告事項（2） ※非公開

寺岡教育長 次に報告第 10 号 令和4年度別府市功労表彰・特別功労表彰候補者についての説明をお願いいたします。

以下非公開

◎ 閉会

寺岡教育長 以上をもちまして、令和4年8月定例教育委員会を閉会いたします。本日はお疲れさまでした。

・発言の内容について、単純ミスと思われる字句、重複した言葉づかい等を整理の上作成しています。